

Tsumama project

平成24年度 特別経費

芸術文化を起点とした実践的教育モデルの構築

つままプロジェクト

富山大学芸術文化学部教授 松原 博



つままプロジェクト概要と平成24年度の位置づけ

高岡キャンパス、中庭にある「つまま」の木の名称から借りたこの「芸術文化を起点とした実践的教育モデルの構築」プロジェクトは、平成23年4月に開設した大学院（芸術文化学研究科）の実践的教育と地域社会の活性化を一体化した授業形態推進を目標とし、学部での実社会との交流から生まれるコミュニケーション能力をベースに、研究科では地域資源を調査、活用しながら行政や企業との連携を通してクリエイティブな人材を育成、地場の産業振興や地域文化の活性化への貢献を目指しています。

具体的な活動は以下の8つのプロジェクトで構成されています。

1. 地域連携プロジェクト（地域連携活動の統括）
2. ギャラリープロジェクト（芸文ギャラリーの運営他）
3. 開発プロジェクト（県デザイン経営塾他）
4. 文化財修復プロジェクト（曳山修復他）
5. 地域活性化プロジェクト（金屋町楽市、市場街）
6. まちづくりプロジェクト（まちづくり事業の統括）
7. 創造的教育環境整備プロジェクト（学内を学生作品で埋め尽くそうプロジェクト他）
8. 情報発信プロジェクト（連携キャラバンの実施、提携校との交流）

平成24年度は、4年プロジェクトの2年目となり、1年目の体制整備、種々の事業計画スタートを受け、研究科生が1、2年生と揃うことを併せて内容の充実を図る年であり、さらに研究科生の卒業、後半3、4年目に向けた継続的に回るシステムの基盤補強の年と位置付けています。

その成果として、初年度に比較し、研究科学生数の増加、学部学生とのコミュニケーション密度のアップなどをベースに、外部講師招聘による授業、公開講演などが増加し、つままプロジェクト活動の具体的なコアともなる地域連携イベントの増加、ギャラリー活動企画密度のアップなど、2年目の位置づけの目標達成を図りました。

3年目、4年目に向けて

研究科1、2年生の世代交代が始まり、修了生が社会にどのように定着していくかの追跡スタートをする年となる。同時に企画全般の充実を図る一方で、短大時代に比較し学部、研究科の合計6年+卒業生という層の広がりから来る地域連携活動の厚み増大など新たな連携局面への対応を25年度さらに26年度の完成年度へ向けて整理を開始する必要があります。



以下、平成24年度に実施された具体的事例を写真で紹介いたします。



図1：「パッケージの勘どころ」展（4月）
日本のグラフィックデザインをリードしてきた鹿目尚志（かのめたかし）さん他による展覧会と同時に、個人作家と企業デザイナーの両方の視点からの講演会を実施した。



図5：「学べる図工女子」（7月）
2010年発足した図工女子が、4つのワークショップを開催、バイヤー山田遊と「いま」をどう考え切り取るかのテーマでトークショーを繰り広げました。



図2：「芸術文化都市構想 都萬麻01」出版記念フォーラム（5月）
大阪市立大学教授、佐々木雅幸氏の講演会、また万葉歴史館の新谷さん、デザイン事務所経営の中山さんと大学教員のパネルディスカッションで、芸術文化推進都市・高岡構想の在り方について二日間のセッションを繰り広げた。



図6：学外研修「加賀象嵌を学ぶ」（7月）
学部生、研究家生、留学生による宗桂会館（金沢市）で、展示物調査に加えて線象嵌の実演、体験をもとに、作家活動にとってのポイントをお聞きする研修でした。



図3：松本クラフトフェア調査ツアー（5月）
松本クラフトフェアは、全国のクラフト作家と生活の中にクラフトを取り入れる楽しみを味わう人たちの交流の場、「金屋町楽市」や「クラフト市場街」に大切な情報源です。



図7：「高岡ストリート構想」提案と具体化（8月）
市内に点在する都市資源に魅力推進の高岡市事業と、授業「まちづくり」のタイアップ。市長へのプレゼンを経て、高岡を代表する人物をあしらったラテアートが採用され、市内各所のカフェで提供が始まりました。



図4：「パフォーミングアート特別演習」（7月）
パフォーミングアーティストで振付師でもある宇都宮千佳さんによる、地域や国際社会におけるアーティストの活動の在り方を実際の演技を通して学びました。



図8：中心市街地に居住者を呼び戻すには（9月）
富山総曲輪のまちなか研究室「MAG.net」で、芸大准教授、建築家のヨコミゾマコトさんとともに、「駅近辺、市街地中心部に居住者を呼び戻す」のテーマで学内外の関係者との交流を実施した。



図9：日本画用筆製作（10月）
日本画用筆作りの第一人者の阿部信治さんから平面表現に欠かせない画材の筆と刷毛の歴史、材料や技術について講義を受けた後実際に自分たちで製作を体験した。



図10：院生展（10月）
修士課程2年生9名による課題研究中間発表に伴う作品展覧会を芸文ギャラリーで実施。一年半の研究発表表とともに最終成果物への情報収集を行った。



図11：（曳山祭りとその保存修復）（10月）
全国各地の祭り屋台の保存修復にかかわってこられた植木行宣さんに「有形、無形文化財を扱ううえでの知識や心構え」について講演いただきました。



図12：「グローバルデザインとローカルデザイン、それぞれがめざすこと」（11月）
日産自動車池山さんを学外講師に迎えて、グローバル化する自動車開発に携わりながら、個人として続ける3-11被災地へのボランティア活動から見てきた日本のこれからの講演をいただきました。



図13：富山県デザイン経営塾7（11月）
南砺市井波地区における「商店街のコミュニティデザイン」テーマに前後6回を実施。地域が持つ強い個性と周辺界隈を含めた地域デザインとコミュニティを論議研究した。



図14：芸文収蔵作品展（11月）
博物館学実習の一環として、芸文ギャラリーで2回に分けて芸文に収蔵される工芸品を展示「全力!! 前回!! 工芸展」「工芸（わたし）の履歴書」と題して、設営から照明、作品解説までを学芸員の視点で展開した。



図15：ボランティアの世界」関連講演会（11月）
ボランティアを通じた地域社会への貢献をテーマに、4回にわたって開講し4名の方々にシリーズ講義を実施していただきました。



図 16：研究科修了製作副論文、中間発表会（12月）
研究科 2 年生 9 名によるこれまでの製作と研究の途中経過の報告会を実施した。



図 20：研究科修了製作・論文最終発表会（1月）
研究科初めての卒業生となる 1 期生 9 名による 2 年間の研究成果の発表会、作品は 3 月 8 日からの学部合同の卒業制作展「GEIBUN4」で展示した。

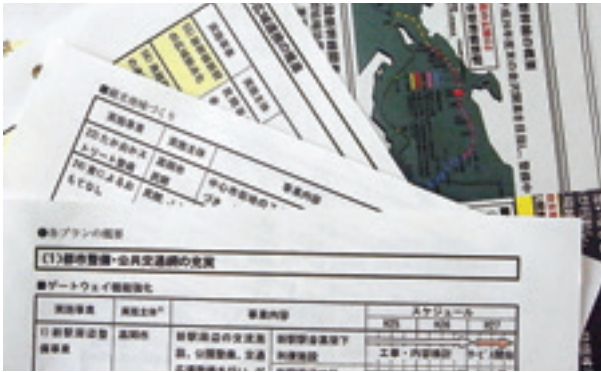


図 17：全国のモニュメント事例調査について（12月）
「高岡新駅・南駅前公園モニュメント製作委員会」発足に伴い、学部生への知見の提供のため全国の事例研究会を実施した。



図 21：「院生展」（2月）
芸文ギャラリーでの研究科 1 年生 8 名による作品展は、会場設営などもすべて担当、期間中には外部講師による講評会も実施した。



図 18：県内 NPO/NGO 団体活動報告（12月）
文化政策論演習 A の一環として、県内で NPO・NGO 活動に携わる稲森忠雄さん、朝比奈裕子さんに学外講師として講演、グループディスカッションを実施した。



図 22：「NOWHERE」展（3月）
学部卒業 1 期生が社会に出て 3 年、制作系の 4 人がそれぞれの制作状況をかつての学びの地「高岡」で作品展、報告会の形で実施した。



図 19：カッティングシートワークショップ（12月）
導入されたカラーシート自動カッティング機をより広く活用するために、活用事例や機器の取り扱い、データの作成方法についてワークショップを開催。



図 23：建築家による「地方都市活性化」講評会（2月）
研究科（建築設計特論演習）、学部（空間デザイン）授業の合同評価会、外部講師、中村竜治さん、矢田朝士さんに地方都市活性化や公共施設空間の在り方から講評を受けた。